

## シグマ研究委員会 FP核データ・FP炉定数合同W.G. 会合議事録

日 時：昭和52年10月21日 10：30～17：30

場 所：原研本部第31会議室

出席者：大竹，瑞慶覧(PNC)，五十嵐，菊池，中川(原研)，渡部(川重)，青木(富士)，  
佐々木(MAP I)，松延(住友原子力)，中嶋(法政大)，川合，飯島(NAIG)

議 事：

(1) 一般報告(五十嵐)

運営委員会議事，旅費等について報告があった。

(2) 両W.G.の活動状況の報告(五十嵐，大竹，菊池，中川)

従来の活動状況について情報交換を行なった。FCAではMo, Nb を使って FP 雰囲気を模擬する実験を計画中。68 FP データファイル完成。

(3) Petten での FPND 会議報告(飯島)

今年9月5日-9日にペッテンで開かれた，Second IAEA advisory group meeting on fission product nuclear data の状況を中性子断面積評価と積分実験の項目について報告した。

内容は，(i)オランダ，US，フランスでのFP積分実験 (ii)中性子断面積評価・測定研究の現状のまとめと recommendation，(iii)ポーロニアでの理論研究の現状，(iv)外国との相互協力等。

(4) 今後の作業の計画

データ・ベース的な評価システムを開発すべきであるという意見に対して，個々の部分を作れば全体の結合は容易であるからむしろ個々の部分を先づ考えるのが良いという反論があり，後者の意見で考えを進めようということになった。

又，ポーロニア，他の最近の手法，改良方法を勉強することから始める必要があるとの意見があった。この意見に沿って，今後評価コードシステムの個々の部分の問題として以下のことを考えて行くこととなった。

案提出担当

(i) $\sigma(n, \gamma)$ データの renormalization のやり方	渡 部
(ii) Resonance parameter の処理—平均パラメタ導出を含む.	中 川
(iii) レベル・スキームデータ処理	菊 池
(iv) $\Gamma\gamma$ の計算・評価	川 合
(v) optical model parameters	五十嵐
(vi) 計算法, コード拡張	五十嵐

国際協力については、JNDC が他国に何を寄与出来るかを見定めることの方が先であろうとの意見があった。又、我々の成果をその都度送付するといった loose cooperation で良いのではないかという意見もあった。いずれにせよ、この点については今後の会合へ議論を持ちこすこととなった。

(以上)